

三七の国・国際機関が集う G20大阪サミット首脳の横顔



出席国（招待国・国際機関）首脳の氏名・役職

◇首脳略歴（五月一七日現在）

◇各国状況

◇人口／国民総所得／一人あたり国民総所得

*データについては『データブック オブ・ザ・ワールド 二〇一九年版』
（二宮書店）を典拠とし、適宜最新データを加えた。

《開催国》

■日本

安倍晋三首相

◇一九五四年生まれ。成蹊大学卒。民間企業を経て、九三年衆議院選挙で初当選。自由民主党幹事長、内閣官房長官（第三次小泉改造内閣）などを経て、二〇〇六～〇七年首相。一二年首相に再び咲き、通算在職期間は桂太郎、佐藤栄作、伊藤博文に次いで第四位。G7サミットでもメルケル独首相に次ぐ出席回数で存在感を示す。

◇一億二五二万人／四兆八二六九億ドル／三万七九三〇ドル

《北東アジア》

■中国

習近平（シージンピン）国家主席

◇一九五三年生まれ。七四年中国共産党入党。七八年清華大学卒。浙江省党委書記や上海市党委書記などを務め、二〇〇七年に政治局常務委員となり次期最高指導者と目される。一二年から党中央委員会議書記、同中央軍事委員会主席。一三年に国家主席に就任。

◇二〇二一年の中国共産党結党一〇〇周年に向けて、GDPと都市・農村住民の一人あたり平均収入を二〇一〇年の二倍にする「小康社会

会（ややゆとりのある社会）実現をめざす。緊張が高まる対米関係に加え、自国経済においても不動産価格や過剰債務問題などにどう対処するか、注目が集まる。

◇一四億一五〇四万人／一兆三七四二億ドル／八二五〇ドル

■韓国

文在寅（ムン・ジェイン）大統領

◇一九五三年生まれ。慶熙大学校法学部卒。人権派弁護士として市民運動に参加し、盧武鉉政権で大統領の側近として活躍。二〇二二年国会議員初当選。同年、大統領選に出馬して朴槿恵氏に惜敗し、一七年の朴前大統領罷免に伴う大統領選挙で当選。

◇平昌五輪を契機とした対北朝鮮外交で注目されたが、北朝鮮の非核化は依然として進まず、次のステップを模索している。さらに、減速する経済情勢の立て直しも喫緊の課題だ。悪化する日韓関係についても、打開の糸口を見出せるか。

◇五二一六万人／一兆四一四四億ドル／二万七六〇〇ドル

《東南アジア》

■インドネシア

ジョコ・ウィドド 大統領

◇一九六一年生まれ。ガジャ・マタ大学林業学部卒。木工業界に携わり、家具製造輸出会社を設立。二〇〇五年スラカルタ市長。二二年ジャカルタ特別州知事。一年の大統領選挙で、国政経験や軍属経験のない庶民派として当選。

◇ジョコ政権は経済・社会政策を最優先課題とし、格差是正やインフラ整備とともに社会保障の充実を目標に掲げている。経済は二〇〇五年以降比較的高い成長率を達成してきたが、輸出促進による収支改善が課題となっている。

◇二億六六七九万人／八八九〇億ドル／三四〇〇ドル

■シンガポール（招待国）

リー・シェンロン 首相

◇一九五二年生まれ。父はリー・クアンユー初代首相。七一年にシंगाポール軍入隊後、ケンブリッジ大学トリニティ・カレッジ卒業、ハーバード大学ケネディスクール修了（行政学修士）。国軍統合幕僚長を務めた後、八四年国会議員に初当選。副首相などを歴任し、二〇〇四年首相に就任。

◇外交はASEAN諸国との友好協力関係を基軸とした地域協力を重視。昨年には史上初めての米朝首脳会談の開催地となった。経済は二〇〇九年から一〇年にかけて急速なV字回復を遂げたもののその後は減速し、低成長を続けている。

◇五七九万人／二九〇九億ドル／五万一千八八〇ドル

■タイ（東南アジア諸国連合（ASEAN）議長国、招待国）

プラユット・ジャンオーチャー 首相

◇一九五四年生まれ。タイ王国防衛大学、チュラチョームクラ才陸軍士官学校卒。二〇一四年、当時のタクシン派政権に対して軍事クーデターを決定し、首相に就任して実権を掌握。一九年三月の総選挙ではタクシン派政党と拮抗しているが、連立協議および上院の支持

を得て、統投が有力視されている。

◇長年にわたって全方位外交を展開し、近年は中東・アフリカ諸国との連携を強化したり、国連安保理非常任理事国に立候補するなど新たな動きもみられる。カンボジアとの国境紛争、ミャンマーからの難民の流入に直面。経済面では中国の影響力が強まっている。

◇六九一八万人／三八八三億ドル／五六四〇ドル

■ベトナム（招待国）

グエン・スアン・フック首相

◇一九五四年生まれ。ハノイ国民経済大学卒。卒業後クアンナム省人民委員会（省政府）に勤め、ベトナム共産党に入党。二〇〇一～〇六年クアンナム省人民委員長。〇六年党中央委員、一一年党政治局員・副首相などを経て、二六年首相に就任した。

◇一九八六年に採択されたドイモイ（刷新）路線を継続し、構造改革や国際競争力の強化に取り組む。二〇一〇年には（低位）中所得国となり、過去数年はASEAN域内でもトップクラスの成長率を達成している。今年二月に米朝首脳会談の開催地となった。

◇九四六七万人／三三七二億ドル／二五八七ドル

《南アジア》

■インド

ナレンドラ・モディ首相

◇一九五〇年生まれ。グジャラート大学卒。二〇〇一～一四年グジャラート州首相を務め、同州の経済を大きく引き上げ、注目を集める。

一四年総選挙でインド人民党（BJP）選挙運動委員会会長としてBJPを勝利に導き、首相に就任。

◇首相就任後も経済重視の姿勢を掲げ、外交面ではアジア太平洋地域の協力関係を推進する「アクト・イースト」政策を展開。安倍首相とは毎年相互訪問を行っている。また中国との経済的な関係強化も進める。現在も高い経済成長率を維持している。

◇一三億五四〇五万人／二兆二二三億ドル／一六七〇ドル

《オセアニア》

■オーストラリア

スコット・モリソン首相

◇一九六八年生まれ。ニューサウスウェールズ大学卒業。観光業に携わり、二〇〇四～〇六年オーストラリア観光局初代局長。一三年アボット政権で移民・国境警備大臣、一四年同政権で社会サービス大臣、一五年ターンブル政権で財務大臣。一八年自由党党首選となり、首相就任。

◇対米同盟を基軸として、アジア・太平洋を外交・貿易上最も重視する。多国間枠組を積極的に利用し、自由貿易協定の締結にも前向き。経済は豊富な資源に支えられ一貫してプラス成長。近年の資源価格下落後も、堅調な住宅投資、輸出などに支えられている。

◇二四七七万人／一兆三三〇億ドル／五万四四二〇ドル

《中東》

■トルコ

レジェップ・タイップ・エルドアン 大統領

◇一九五四年生まれ。マルマラ大学在学中より、イスラム政党で政治経験を積む。イスタンブール市長を務めた後、二〇〇一年に公正発展党を結成して初代党首に就任。〇三～一四年首相。一四年、憲法改正を経てトルコ初の直接選挙で大統領に選出される。

◇ロシア、イランとともにアスタナ・プロセスを主導しシリア情勢の安定化を模索するほか、アジア・アフリカを視野に入れた積極外交を推進し、独自の存在感を示す。EU加盟交渉は停滞。昨年、対米関係の緊張からトルコリラが急落し、経済は減速した。

◇八一九二万人／八九三〇億ドル／二万二二三〇ドル

■サウジアラビア

サルマン・ビン・アブドルアジーズ・アール・サウード 国王

◇一九三五年生まれ。初代国王の二五番目の男子。一九五五年～二〇一一年リヤド州知事。国防相、皇太子を歴任し、一五年アブドゥッラー国王が亡くなると国王即位。一七年に同国王として四六年ぶりに訪日。

◇世界最大級の石油埋蔵量、生産量および輸出量を誇るエネルギー大国。石油輸出国機構（OPEC）の指導国として国際原油市場に強い影響力を持つ。近年はムハンマド・ビン・サルマン皇太子主導の経済・社会改革が目される。

◇三三五万人／七六九九億ドル／二万三一九〇ドル

《北米》

■カナダ

ジャスティン・ピエール・トルドー 首相

◇一九七一年生まれ。マギル大学大学院修了。二〇〇八年カナダ連邦議会選挙で初当選。一三年自由党党首に就任。一五年総選挙で自由党を勝利に導き、四四歳でカナダ首相に就任。保守政権から中道左派の自由党へ、約一〇年ぶりの政権交代となった。

◇現在、首相を除く三四閣僚のうち女性が一七名と半数を占める。選挙公約に掲げた中間層の減税および最富裕層への増税、さらに三年間の財政赤字を組んでの大規模なインフラ整備を進めた。外交は対米関係を最重視しながら多国間外交を展開。一〇月に総選挙を控える。

◇三六九五万人／一兆五八四三億ドル／四万三三六〇ドル

■メキシコ

アンドレス・マヌエル・ロペス・オブラドール 大統領

◇一九五三年生まれ。メキシコ国立自治大学卒。メキシコシティ市長（二〇〇〇～〇五年）を経て、〇六年、一二年の大統領選挙に出馬するも敗北。既成政党から離脱し自ら立ち上げた新興政党国民再生運動から、一八年に三度目の大統領選挙に出馬、圧倒的勝利を収めた。

◇汚職撲滅を強く訴え、また治安対策強化、貧困削減、格差是正などの社会政策の充実を掲げ、昨年二月の政権発足以来、高い支持率を保つ。

◇一億三〇七五万人／一兆一五三五億ドル／九〇四〇ドル

■アメリカ

ドナルド・ジョン・トランプ 大統領

◇一九四六年生まれ。ペンシルバニア大学経営学部卒。実業家として活躍し、不動産王として名をはせる。二〇一六年の大統領選挙でヒラリー・クリントン候補との激戦を制し、翌年、政治や軍人の経歴を持たない初めての大統領として就任した。

◇「米国を再び偉大にする」との方針の下、大型減税を柱とした税制改革やインフラ投資などを進め、雇用も含め、おおむね成長基調の経済を実現している。北朝鮮との首脳会談、貿易から覇権問題へとシフトしつつある対中関係など、次期大統領選挙もにらんだ「トランプ外交」から目が離せない。

◇三億二六七六万人／一兆八三三三億ドル／五万六八二〇ドル

《中南米》

■アルゼンチン

マウリシオ・マクリ 大統領

◇一九五九年生まれ。アルゼンチンカトリック大学卒業。九五～二〇〇七年名門サッカークラブであるボカ・ジュニアーズの会長を務める。〇七～一五年ブエノスアイレス市長を経て、一五年に大統領に就任。

◇欧米諸国や近隣の南米諸国との連携を強化するほか、通商面ではアジア諸国との関係も重視。二〇〇一年にデフォルトを宣言したが、マクリ政権の発足後は国際金融市場に復帰。しかし再び困難な状況に陥り、IMFの支援を受け、現在財政状況の改善に取り組んでいるところ。

るところ。

◇四四六八万人／五二五〇億ドル／二万一九七〇ドル

■ブラジル

ジャイル・ボルソナロ 大統領

◇一九五五年生まれ。陸軍士官学校卒。陸軍を経て、八九年リオ市議会議員に当選。九一年連邦下院議員。SNSを活用して政治不信の受け皿となり、国民の支持を集める。一八年の大統領選挙に勝利し、今年一月就任。

◇二〇〇二年にハイパー・インフレを収束させてから経済成長を続け、現在は世界第八位かつ南米最大の経済規模を誇る。一方で高い失業率に悩む。外交では地球規模の問題に積極的に関与する。海外で最大の日系社会が存在し、要人の往来も活発。

◇二億一〇八六万人／一兆八三三〇億ドル／八八四〇ドル

■チリ（アジア太平洋経済協力(APEC)議長国、招待国)

セバステアーン・ピニエラ・エチエニケ 大統領

◇一九四九年生まれ。カトリック大学卒業後、ハーバード大学で経済学博士号取得。ビジネスの世界で活躍し、九〇年上院議員に当選。二〇〇一年国民革新党党首。一〇～一四年大統領。一八年に二度目の大統領に就任（連続再選不可）。

◇TPPの署名式を主催するなどEPA・FTAの締結に積極的なFTA先進国である。近隣諸国およびアジア太平洋地域との関係強化を継続し、開放的な経済政策を軸に外交を展開する。今年にはAP ECとCOP25の議長を務める。

◇一八一九万人／二四二五億ドル／一万三五四〇ドル

《欧州》

■フランス

エマニュエル・マクロン 大統領

◇一九七七年生まれ。パリ第一〇大学、パリ政治学院、国立行政学院卒。財務監査官を務めた後に投資銀行での勤務を経て、二〇二二年大統領府事務次長。一四年経済・産業・デジタル大臣として規制緩和を推進。一七年にフランス史上最年少で大統領に就任。

◇多国間主義的な世界観を基盤に、国際協調の重要性を主張し、欧州統合を推進。経済面では慢性的な高失業率を抱え、法人税率引き下げや労働市場の柔軟化で活性化をめざす。景気は緩やかな回復傾向だが、昨年末から「黄色いベスト運動」などをはじめとする反発も継続している。

◇六七五〇万人／二兆五九〇〇億ドル／三万八七二〇ドル

■ドイツ

アンゲラ・メルケル 首相

◇一九五四年生まれ。ライプツィヒ大学卒。理学博士。ドイツ再統一後、連邦議会選挙に当選。コール政権で要職を歴任し、二〇〇〇年キリスト教民主同盟(CDU)党首に就任。〇五年連邦首相に就任し、一八年より四期目。同年一〇月のバイエルン州およびヘッセン州議会選挙でCDU/CSUが相次いで得票率を下げたことなどを受け、党首を退任。

◇伝統的に欧州統合の推進とNATOを基軸とした大西洋関係を重視。長期政権の維持と経済力によって、EUの中でもメルケル首相の存在感は絶大だが、国内での基盤が動揺しつつある。

◇八二一九万人／三兆六二四六億ドル／四万三八五〇ドル

■イタリア

ジュゼッペ・コンテ 首相

◇一九六四年生まれ。ローマ・ラサピエンツァ大学卒。フィレンツェ大学で教授を務めた法学者。二〇一八年の総選挙で既得権益に異を唱え第一党となった「五つ星運動」と、右派政党「同盟」両党の支持を受けて連立政権を率いる。

◇欧州統合の推進と大西洋同盟の重視は他のヨーロッパ諸国と共通するが、地理的な位置から地中海・中東諸国との関係も重視。移民・難民への対処が最大の課題となる。ユーロ導入後は低い成長率と財政難に苦しむが、経済成長による財政健全化に取り組む。

◇五九二九万人／一兆九三二億ドル／三万一七三〇ドル

■ロシア

ウラジーミル・ウラジーミロヴィチ・プーチン 大統領

◇一九五二年生まれ。レニングラード国立大学法学部卒業後、KGBに勤務。サンクトペテルブルク市副市長、連邦保安庁長官などを経て、九九年に首相に就任。二〇〇〇〜〇八年大統領、〇八年に再び首相を務め、二二年大統領に復帰。一八年四選。

◇クリミア「併合」後、欧米諸国との関係は冷え込んだが、世論からの支持は高い。石油・天然ガスなどの天然資源への依存度が高い

ロシアは、油価の低迷を受けて経済・財政状況が悪化。近年、成長率は徐々に回復しつつある。日本との平和条約締結に進展はみられるか。

◇一億四三九六万人／一兆四二五七億ドル／九七二〇ドル

■イギリス

テリーザ・メイ首相

◇一九五六年生まれ。オックスフォード大学セント・ヒューズ校卒。イングランド銀行などで勤務した後、九七年に下院議員に当選。第一次・第二次キャメロン政権で内相などを務め、EU離脱の是非を問う国民投票後に首相に就任。英国史上二人目の女性首相となる。

◇二〇一七年三月、英政府はEUに対して正式に離脱の意思を通知し、翌年一月にはEUとの間で離脱協定が合意されたが、与党内の造反もあり、一九年五月時点では、離脱協定の議会で承認が得られておらず、膠着状態が続く。

◇六六五七万人／二兆七七八五億ドル／四万三三三〇ドル

■欧州連合 (EU)

ドナルド・トゥスク 欧州理事会議長 (元ポーランド首相)

◇一九五七年生まれ。グダンスク大学卒、学生時代より自主管理労組「連帯」に所属。民主化後、中道右派政党「市民プラットフォーム」の結成に関わり、二〇〇三年党首、〇七年首相に就任し、一四年より現職。今年一月末に退任予定。

ジャンククロード・ユンカー 欧州委員会委員長 (前ルクセンブルク首相)

◇一九五四年生まれ。ストラスブール大学卒。八四年代議院議員に当選し、労働相や財務相を経て、九五年からは一八年間にわたり首相を務めた。また二〇〇五年からはユーロ・グループ議長として欧州の通貨統合を牽引。一四年から現職。今年一〇月末に退任予定。

■オランダ (招待国)

マルク・ルッテ首相

◇一九六七年生まれ。ライデン大学卒。民間企業に勤務しながら、学生時代から所属していた自由民主国民党でキャリアを積む。二〇〇二年からは社会・雇用副大臣、その後教育・文化・科学副大臣も務める。〇六年党首就任。一〇年から首相を務め、現在三期目。◇ヨーロッパ共同体の原加盟国として欧州統合を推進してきたが、欧州の統合深化に懐疑的な勢力の台頭が著しい。経済は欧州債務危機後の脆弱な成長率を経て、財政支出削減等により一四年から継続的にプラスで推移している。失業率も低下傾向が続いている。

◇一七〇八万人／七九三七億ドル／四万六六四〇ドル

■スペイン (招待国)

ペドロ・サンチェス・ペレス・カステホン 首相

◇一九七二年生まれ。マドリッド・コンプルテンセ大学、ブリュッセル自由大学卒。経済学博士。九三年社会労働者党 (PSOE) に加わり、〇九〜一一年および一三〜一六年下院議員、一四〜一六年および一七年からPSOE書記長。一八年首相に就任。

◇先月行われた総選挙では、PSOEが議席を伸ばして第一党となったが、過半数には至らず。保守・右派政党VOXも伸長した。カタルーニヤの分離独立問題もくすぶる。経済は堅調さを維持しているが、若年層を中心に失業率は依然として高く、深刻な問題となっている。

◇四六三九万人／一兆二八八億ドル／二万七六〇〇ドル

《アフリカ》

■南アフリカ共和国

シリル・ラマポーザ 大統領

◇一九五二年生まれ、南アフリカ大学卒。学生時代から「アフリカ民族会議」に加わり、アバルトヘイト体制下では拘束された経験も。同党でキャリアを積み、実業界への転身を経て、二〇一四〜一八年副大統領。一八年、汚職疑惑で辞任に追い込まれたズマ前大統領に代わって大統領に就任。

◇アバルトヘイト廃止後に、国際社会に復帰。アフリカ唯一のG20メンバー国として、新興国の中での発言力を強めている。サブサハラ・アフリカにおける第二位の経済大国としてアフリカ経済を牽引しているが、格差の拡大や失業率の高さが深刻な課題となっている。

◇五七三九万人／三〇六九億ドル／五四九〇ドル

■エジプト（アフリカ連合（A.U.）議長国、招待国）

アブドゥルファッターハ・エルシーシ 大統領

◇一九五四年生まれ、エジプト陸軍士官学校、米国防立戦略大学卒。軍内部での要職を経て、二〇一一年軍事情報庁長官。翌年国防相。

「アラブの春」で成立したムルシー政権の失政で情勢が混乱するなかでのクーデターを経て、一四年に大統領に就任。現在二期目。

◇アフリカ・中東における地域大国として、イスラム・非同盟諸国との連帯を図る一方で、欧米諸国との協調も重視する。フランス外交を展開。経済面では治安情勢悪化のため収入減の観光業が大打撃を受けたが、諸外国やIMFからの支援を受けて新スエズ運河のような大型国家プロジェクトを行った。

◇九三三万人／三六三億ドル／三四一〇ドル

■セネガル（アフリカ開発のための新パートナーシップ（NEPAD）議長国、招待国）

マッキー・サル 大統領

◇一九六一年生まれ。ダカール大学やフランスの教育・研究機関で地質工学の教育を受ける。二〇〇〇年からエネルギー・鉱山担当の大統領顧問を務める。エネルギー相や内相などを歴任し、〇四年から〇七年まで首相。国会議長を経て、二二年大統領に就任。

◇独立以来民主主義が定着し、政情は安定。旧宗主国フランスを含めて欧米諸国との友好関係を維持し、地域協力にも積極的である。経済は一九九〇年代からの構造改革の結果として成長基調に乗り、商業や物流・通信分野が発展を遂げているが、格差拡大や若年層の失業問題などの課題も残る。

◇一六二九万人／一四六億ドル／九五〇ドル

《国際機関》

■国際連合（UN）

アントニオ・グテレス 事務総長

◇一九四九年生まれ。リスボン工科大学卒。一九九五～二〇〇二年ポルトガル首相。〇五～一五年国連難民高等弁務官（UNHCR）、一七年より現職。

◇現在国際社会に存在する組織として、国連は最も広範な権限と普遍性を有する組織である。

■国際通貨基金（IMF）

クリスティーヌ・ラガルド 専務理事

◇一九五六年生まれ。パリ第一〇大学、エクスマンIIプロヴァンス政治学院卒。弁護士を経て、二〇〇五年フランス政界入り。〇七年財務相、一一年から現職。

◇IMFは加盟国の経常収支が著しく悪化した時に融資を行うことで、経済発展や円滑な国際貿易の促進に貢献することを目的としてる。

■世界銀行

デイビッド・マルバス 総裁

◇一九五六年生まれ。デンバー大学で経営学修士、ジョージタウン大学で国際経済を学ぶ。二〇一六年、大統領選挙に出馬したトランプ氏の経済顧問、一七年財務次官。一九年より現職。

◇世界銀行は、途上国の政府に対して貧困の削減と持続的成長の実現を目的として、融資や技術協力、政策提言を行う機関である。

■世界貿易機関（WTO）

ロベルト・アゼベド 事務局長

◇一九五七年生まれ。ブラジリア大学、リオブランコ外交官研修所卒。ブラジルの外交官としてGATT/WTOに長く携わる。二〇〇八年在ジュネーブ代表部大使、一三年から現職。

◇WTOは自由貿易の推進を目的として、貿易に関連するさまざまな国際ルールを交渉する場を提供し、ルール実施をモニターする機関である。

■国際労働機関（ILO）

ガイ・ライダー 事務局長

◇一九五六年生まれ。ケンブリッジ大学、リバプール大学卒業。ILO等を経て国際自由労働組合総連盟、国際労働組合総連合の書記長を務めた後、二〇一二年現職。

◇ILOは労働・生活条件の向上、雇用機会の推進などを目的とする機関で、国連機関唯一の政労使三者構成機関である。

■金融安定理事会（FSB）

ランダル・クオールズ 議長

◇一九五七年生まれ。イェール大学で法学博士号取得。弁護士を経て、ブッシュ父子政権で財務省勤務。二〇一七年連邦準備制度理事会の銀行監督担当副議長、翌年から現職。

◇FSBは国際金融に関する措置、規制、監督などの役割を担っている。



昨年11月30日～12月1日にアルゼンチンで開催されたG20ブエノスアイレス・サミット。「公正で持続可能な開発のためのコンセンサスの構築」の主要テーマの下、緊迫する貿易摩擦や新興国経済の脆弱性などのリスクに直面する中で、首脳間で率直な意見交換が行われた（内閣広報室）

■経済協力開発機構（OECD）
アンヘル・グリア 事務総長

◇一九五〇年生まれ。メキシコ国立自治大学卒業。リーズ大学大学院修了。経済学修士。メキシコで一九九四～九八年外相、九八～二〇〇〇年財務相を務め、メキシコ経済を安定に導いた。二〇〇六年より現職。

◇OECDは世界経済の成長、開発、貿易の拡大に貢献することを目的とした機関である。

■アジア開発銀行（ADB）

中尾武彦 総裁

◇一九五六年生まれ。東京大学卒、大蔵省入省。カリフォルニア大学バークレー校でMBA取得。二〇〇九年財務省国際局長、一一年財務官を経て、一三年より現職。

◇ADBはアジア・太平洋地域を対象とする国際開発金融機関であり、貧困の削減と平等な経済成長の実現を目標としている。

■世界保健機関（WHO）

テドロス・アダノム 事務局長

◇一九六五年生まれ。アスマララ大学卒業後、一時保健省に勤務し、ロンドン大学、ノッティンガム大学へ留学。公衆衛生学博士。エチオピアで二〇〇五年保健相、一二年外相を務め、一六年から現職。

◇WHOは健康を基本的人権の一つと捉え、その達成を目的とする機関である。